

い機会でした。私は子供が欲しい派なんですけどその理由が小学校の授業参観の時親父が若くてカッコ良ければ・・・とっていたこと（笑）あとは人生経験できることは経験しないと損だと思うからというあいまいなモンでぜんぜん真剣じゃないなと実感しました。現実を目を向けることも必要だと思いました。自分にはまだまだ子供を持つのは先になると思いますが・・・。（19歳・男）

<子どもに関する意見>

- ・こども is LOVE(19歳・男)
- ・こどもはかわいい。（22歳・男）
- ・今後生まれてくる子どもたちへ、善悪判断のできる子どもになってほしい。（21歳・男）
- ・最近の子どもにはいわゆる子供っぽさがない。大人の完全なミニチュアとしての子供が目立つ。（21歳・女）
- ・最近の子供は元気がない。（21歳・男）
- ・最近やけに大人びた子供が多い気がします。幼いのおちついているというか人生悟ってしまっているというか・・・それに伴い子どもの心はますます見えにくくなって私達まわりの大人にも「最近の子供は何をするかわからない」という悪いイメージがついてしまっている気がします。女性も働くのが当たり前になった現代であるから子供とじっくり話す機会がへるのは仕方ないのかもしれないけどでもこのままじゃ子供はどんどん壊れていくと思います。女性が働きながらかつ子供にもじっくり目を向けられる社会になったらいいのにと 생각합니다。（21歳・女）
- ・最近よく耳にする事件は何らかの形で子供が関わっているものが多い気がする。3才の子供をダンボールの中に入れて3週間放棄し餓死させた事件小中学生が出会い系サイトを利用し犯罪にまきこまれるなど。社会や大人が守るべき子供が守られていないような気がする。子供が犯罪をおこすような人間にならないためにも子供が犠牲にならないためにも幼少の頃に親がしっかりと愛し教育することが非常に大切である。そのような環境を整えるためには国の様々な政策援助が必要である。（22歳・女）
- ・子どもによる。（20歳・男）
- ・子どもに関する意識は自分が育ってきた環境が影響していると思った。私は下の兄弟がないので小さな子どもがよくわからない存在だし自分が3人兄弟なので自分の子どもも1人っ子だったら淋しいだろうなと思う。（21歳・女）
- ・子どもはかわいいし私も早くほしいと思うが不安も大きい。最近私の周りにはできちゃった結婚しかも故意的な結婚をする人が多い。しかしそんな簡単なものではないはずで一人の命がかかった問題なので子どもを作るなどとはいわないがもう少し慎重になったほうがいいと思う。（20歳・女）
- ・子どもはすごいかわいくて好き。でんしゃの中の子供とかめっちゃしゃべりかけたい。自分でも子どもに沢山かこまれて生活したい。けど出産しても仕事は絶対つづけたいで

- ・女性にも優しい職場がイイナァ…と思う。(19歳・女)
- ・子どもはときに経済的負担になったりストレスになったりもするものであるが子どもを持つことにより親は生きがいを見つけることができるし成長することができると思う。(20歳・女)
- ・子どもは貴重。(21歳・女)
- ・子どもは純粋でキレイな瞳をしています。子どもたちの未来が幸せなものになるよう私たちは努力していかねばならないと思います。(19歳・女)
- ・子どもは女の子がいいです。名前は「彩名」がいいです。(19歳・男)
- ・子どもは大好きですが子育ては大変で色々問題が起きると思います。(うちの状況から)(22歳・女)
- ・子どもは大切です(21歳・男)
- ・子どもを見ているのはとても面白いですがその一方で育ててゆく責任なども多大なものがあると思います。自分にとってはそれは未知数なので子を持つのは少々恐ろしくもあります。(23歳・男)
- ・子供のかわいさは武器だ(19歳・男)
- ・子供はかわいいと思うし自分も持ちたいと思うがその後の困難についても考えていかねばならない!(19歳・男)
- ・子供は親の背中を見て育つので親が社会の規範としての行動をとらないと子供も同じようになる確率が高いと思う。つまり子供の教育の本質は親の教育だと思う。(21歳・男)
- ・私のイメージではかわいいが金がかかるような感じである。もう少し政府から資金の援助があればいいと思う。(20歳・男)
- ・自分は子供が好きです(22歳・男)
- ・赤ちゃんは天使☆(19歳・女)
- ・友達に子供がいるが子供というのは本当にすばらしい存在だと思った。(21歳・女)

<子育てと社会・政府・企業等に関する意見>

- ・子供を育てるのは女性にとって重要なことである。(もちろん男性にとってもだが)これは女性は家にいなければいけないという旧観念ではない。女性が社会進出すること奨励すべし。しかも同時に女性が家にいることも奨励すべきではないのか。軽薄なフェミニズム連中がいうべきことは女性を男性と全く平等に扱え給与も権利も平等にせよという意見である。これに対して真のフェミニズムがあるとすればそれは女性と男性の特徴(差異)をしっかり認識しそれに見合った女性の社会進出を考案していく運動であるといえよう。女性が家庭にいる(21歳・男)
- ・もっと子供を育てる上で保障をしていき子供を育てる上で偏見や弊害をなくして欲しいと思います。(20歳・男)
- ・育児に関する制度が充実すればよいとは思いますがその分女性は会社に対して人一倍働かないと(かつ評価されないと)まだまだ認められない現状だと思う。(20歳・女)

- ・育児に対してさらに社会が真剣になるといいと思う(19歳・男)
- ・育児休業など最近制度は少しととのえられてきたのですが実際にはそれだけ長期間ブランクがあると復帰しても仕事においつけないから子供が作れないという話を女性の研究者の方がおっしゃっていました。せっかく情報のやりとりが容易な世の中になったのだから休業中のケアなどもっと広がっていけばいいと思っています。(23歳・女)
- ・育児休業使うとやっぱり嫌がらせがあるんですね。知らなかった。(21歳・女)
- ・企業の育児に対する姿勢をあきらかにしてほしい。(22歳・男)
- ・現在家族社会学のゼミに所属していることもあり夫婦そろって子供を育てるような家族を多く見てきました。やはり現在の社会の仕組みだと男性が会社を休職して育児をすることはその後のキャリアを考えると不利にはたらくことが多くたとえそのような休職の制度があったとしても活用できないのが現実だと思います。これは政府などがいくら言っても無駄なことだと思います。これは就労時間を守り残業を減らすことをいくら政府が言っても企業側が聞かないことから明白です。まずは男性が育児することが普通である社会を作ることが制度を作ることよりも先決すべきことだと思われました。(22歳・男)
- ・現代において少子化が進行していき子供が行きにくい環境にあると思った。別の言い方をすれば子供を産みにくい環境にあると思う。例えば遊び場所が減少したり放課後家に帰っても相手をしてくれる人がいない。あるいは小児科が減少していたり と子供をないがしろにするように物事が進んでいると思う。(21歳・男)
- ・高齢化社会といわれる現代において子孫を残すことは重要となるだろう。しかしその一方では人口過多という問題もある。これらをうまく考慮したうえでの政策を期待する。(20歳・女)
- ・今就職活動中です。男女ともに働きやすい会社を探すのにとても苦労しています。なので今回のような調査をこれからの日本働く人子どもたちのために是非役に立てていただきたいと思います。女も男も仕事と育児どちらも当たり前のように両立できる世の中になって欲しいと思います。そしてこれから生まれてくる子どもたちの夢がつぶされないような環境をつくって生きたい。(21歳・女)
- ・今の社会では女性が安心して子どもを持つことなどできるわけがない。(19歳・女)
- ・仕事と子育てを両立させるための支援があれば積極的に産んで育てると思う。(22歳・女)
- ・子どもの出産・育児がしやすくなる環境が整って少子化の問題が解決することを願う。(20歳・男)
- ・子どもを女性が持ちやすい環境をつくるのに役立てて欲しいです。(19歳・女)
- ・子供がかわいそうだからと仕事をやめる女性をたくさん見たし仕事を続けると子供が1人で留守番をすることになったりと子供と仕事が現在の日本のシステムでは両立が非常に難しいと思う。仕事を続けながら子育てをできるならば女性は家庭にしばられることも少なくなるし女性の経済的自立は離婚・死別時するようなことがあってもやっていけるから自分のために仕事したいという感じはいない。(21歳・女)
- ・事前よりは状況は変わっているとはいえいまだに女性が仕事と子育ての両立をするのが難しい世の中であると思う。それだけの基盤がないということももちろんあるしまだまだ男

性社会であり男性の家事や育児に対する理解がもっともっと深まっていかななくてはならない。女性が社会進出していくこと自体とても喜ばしいことであるが合計特殊出生率が低下しているのもまた事実である。少子化に歯止めをかけようと思ってもなかなか難しいだろう。子どもを産まなくなっている理由の一つとして経済的な問題がある。特に教育費に多大な費用がかかるとい(23歳・女)

- ・時代の変化に伴い女性の社会進出など現実生活レベルで家庭のあり方が変化してきているともいます。同時に治安の悪化や青年少年犯罪の増加も見られます。今昔のように女性が家庭にいて子供の世話をする。というだけでは犯罪や非行を減らすことにはつながらないと思います。現代社会に見合った家庭のあり方を考え社会がそれをサポートしそして本人が家族とよくコミュニケーションをとって家庭なりの幸せを求めていくことが大切ではないかと思います。(21歳・女)
- ・社会が変わらないと少子化問題は解決しないと思う(20歳・男)
- ・社会的個人的にも子どもとその親(とくに女性)を支援するしくみが重用だと思う。(20歳・男)
- ・就職のためOB訪問などを行っているると必ず「女性の就職は厳しい。女性差別は当たり前」だと言われます。伝統のある会社経営陣の若返り化のない会社では法の整備が進んでも女性の雇用状況は依然厳しいままな気がします。出産・育児の重要性を安易に叫ぶのは女性をまた内に閉じ込める危険があると思うので具体的なプランまたは成功例などを示し徹底的な取り組みを望みます。(21歳・女)
- ・女性の就職が難しくなっていますが女性スタッフを必要としている会社でないと育児に関する制度も整えるのが難しいのではないかと思います。こんなに会社にとってマイナスな制度(勤務時間を減らすetc…)を作るなら男性を雇ったほうがずいぶんらくだもんなーと思いました。(19歳・女)
- ・少子化が叫ばれているがそれはみな自己中だからだと思う。将来のことを考えてフリーターなどせず働き子どもを作ってほしい。今の出生率では人口が減る一方だ。2%程度に回復してほしい。(20歳・男)
- ・色々な制度が整いつつあるがやはり子育てで苦勞をするのは女性だと思う。いくら制度があってもこの認識が変わらなければ子育てを諦める女性が多いと思う。(21歳・女)
- ・親(大人)が金を求める社会において子どもの真の幸福は得られないと思う。子どもの真の幸福は大人が金を求めてやっきになって働いて夫婦げんかなどをおこす社会ではなく大人に子供と接する時間を与えてゆとりを与える社会だと思う。現実には難しいが。(21歳・男)
- ・親がお金を出して支援してくれているうちはまだ「子ども」だと思う。その意味で私も子供である。変な言い方だが子供である以上親の言う事は聞くべきかもしれない。(20歳・男)
- ・親が安心して子供を育てられる社会になってほしい。(19歳・男)
- ・人が子供を欲しいと思うことは生き物として自然のことであるが先進国ではそうではなくなっている。つまりわれわれの社会は自然から離れてきているのである。少しでも社会を自然に近づけるような努力を私も含め大人たちがやっていかなければならないと思う。(23歳・男)

- ・正しい育児を行うためにも育児休業制度はさらに充実させていく必要があると思います。(23歳・男)
- ・日本も子育てを楽しくできる環境を整えればよいなと本当に思います。(22歳・女)
- ・日本社会はもっと育児休業を取れるようになればいい。(19歳・男)
- ・本当は3人か4人くらい子どもが欲しくても現代の社会状況(学費の高さなど)によって実際産める子供の数は少なくなっていると思う。子どもが好き子育てが好きと思えば子供がたくさん欲しい人や家庭には支援がもっとあっていいのではないか?だが税金の増額も家計を圧迫する。(23歳・女)

<その他の意見>

- ・こうしている間にも世界中で多くの子どもが餓死しているのですよね。(22歳・男)
- ・この調査を答えてみて“自分の子供”というビジョンをみたが“できちゃった婚”だけはしたくないと思った。(20歳・女)
- ・これを機会に子どもと接すること時間を増やして子どもについてより考えてみようと思う。(34歳・男)
- ・もっと教育法を考えるべきだ(19歳・男)
- ・結婚についてちょっと考えさせられた。(20歳・男)
- ・現代の若者がどのくらい子どもをほしがっているのか知りたいです。(22歳・女)
- ・子どもに関する育児休暇について本調査で知ることができた。(19歳・男)
- ・子どものことに関して少し考えさせられた。(22歳・男)
- ・子どもを作るということは結局ミトコンドリアの種の存続という意志に支配されている部分が大きいと思う。だから人間はみんな子どもを安易にほしがってしまうんだと思う。子どもを作るんだったら親は責任もってきちんと育てなければならないんだとおもう。(23歳・男)
- ・子どもを産んで子育てをしていくにはその前に具体的な経済的精神的負担などを考えた上でないといけないと思います。そういった面に関しての項目が具体的にいくつもあったので「こういうことも考えなきゃいけない」と気づいたのでこの調査は自分の役にもたつたので良かったです。(19歳・女)
- ・子どもを持ち育てることは地球にとって大切なことだと思う。ただ自分には結婚の意志がないので子どもは持てない。幸せな家庭を持つことができた人たちにはそれぞれの宝物をフルパワーで育てて欲しい。(19歳・男)
- ・子どもを持つか否かということは自分の数年後に迫った命題であるので興味を持って回答しました。(23歳・男)
- ・子どもを生むのに必要な考えの項目が整理された気がします。(21歳・女)
- ・子育てについて考える機会がもてて良かったと思います。(19歳・男)
- ・私の研究フィールドは保育園での地域子育て支援なので子どもと触れ合ったりお母さんの話を聞いたりします。色々な政策が実現されることを望みますし若い人達が子どものいる

- 生活を知るような機会が増えると良いなあ…と思っています。(21歳・女)
- ・私の卒論は育児ストレスの研究をしています。子どもの問題行動→母親の認知→ストレス反応という過程が明らかになりました。是非とも結果を教えてください。(24歳・女)
 - ・自分の心の奥に眠っているあいまいな考えを見直すことができよかったです。(19歳・女)
 - ・正直まだ結婚もしていないのでわからない。(22歳・男)
 - ・知らなかった子育ての制度について知ることができてよかった。(20歳・女)
 - ・不妊症に悩む方や子どもをいらないと思う夫婦がいる。子供がいないと幸せになれないとか言い切るのはどうなのかと思う。大事なのは夫婦が子どもをほしいと思ったときに子どもを育てて生きやすい子育てをするという人生を選択しやすい社会を作ることだと思う。子どもを産み育てることは親の自由だが子どもの人生その子が将来何をしたいのかは子どもの選択するところだ。初めから扶養を考えて子どもを育てることは少しゆがんでいる気がする。(19歳・女)
 - ・普段あまり子供を持つことについて考える機会がないので自分の将来について考えさせられました。自分の将来について考えるよいきっかけになりました。(22歳・男)
 - ・友人が子どもを産んだので身近な問題として考えられた(21歳・男)
 - ・このアンケートをやって 自分は子育てに関して女性がやるものとの考え方をもっていることがわかった。(20歳・男)
 - ・この調査をして子育てと仕事が両立できるか不安になりました。(23歳・女)

3. 「子どもの価値観と出産・育児に関する調査」インタビュー調査

本年度は、20代から30代前半の男性5名（30代 既婚 子どもあり 2名／30代 既婚 子どもなし 1名／30代 未婚 子どもなし 1名／20代 未婚 子どもなし 1名）に対して、各1時間から1時間半の、半構造化面接方式のインタビューを行った。現在インタビューデータのプロトコルおこしの作業を行っており、データの分析は平成16年度に行う予定である。このため、ここではインタビューを行った際の感想や気になった点について報告する。

まず、30代の男性では、既婚／未婚ともに、子どもを持つことに対して、ある程度の現実的な考え方を示していた。たとえば、子どもの数については、それぞれに抱えている事情のためもあるが、一人いけば満足しており、多くても二人いけばいいと考えていた。20歳前後の学生に対して行ったアンケート調査の結果では、子どもは2人や3人ほしいと考えている人が多かったことから考えると、子どもをほしいと考える希望は、何らかの要因によって、低下しているのではないかといえる。

また、30代の男性の子育てへの参加意欲については、状況が許せば参加したいが、状況を積極的に変えるような働きかけについては、否定的であった。育児休業制度についても、積極的にとることは考えていなかった。この点についても、20歳前後の学生へのアンケート調査の結果と比べて、大きな差があることがわかった。

このほか、子どもの数を制限する理由として、経済的・物理的な負担が挙げられ、特に子どもに十分な教育をするためには、子どもの数が限られると考えているようであった。中には、大学教育まで子どもに受けさせることが負担だと考えているのではなく、それ以前の小学校からの義務教育期間で、質の高い教育や環境を考えると教育費がかかるため、と考えている人もいた。

また20代男性の場合、結婚及び就業といった事柄に関して未経験であり、将来にかけての人生のビジョンが定まっていな中での、回答であり、想像の域を出ていない部分も多々ある。とはいえ、結婚や子育てについての意欲は非常に強かった。また家事能力については相当自信を持っており且つ実際に行っている。その家事能力を生かし、子育てにも参加したいという意見であった。

本年度のインタビュー調査は、アンケート本調査に向けての調査項目整備のための、実態調査の目的と、次年度に計画しているフォーカス・グループインタビューの準備の目的があった。今後、この目的に向けての詳細な分析が必要である。

D. 考察と結論

本年度の調査結果から、20歳前後の若者では、結婚や子どもを持つこと、子育てへの参加意欲が男女ともに、高いことが明らかとなった。

男性も女性も子どもを持つことについては多くの者が肯定的で、将来子どもを欲しいと考えている。育児参加についても、男女差があるものの多くの者は、主体的にこれをおこなう意欲はある。

結婚や子どもを持つことについては、できちゃった結婚や未婚のまま子どもを持つといった事柄には保守的な意見を持つ者が多い一方、「子どもを持たない」という選択肢を受容するといった傾向があることから、20歳前後の若者は、結婚や子を持つ「持ち方」については几帳面であり「持つかどうか」については曖昧な意見を持っていると言えよう。また、育児資源としての男性の活用（「子どもが小さいときに父親が育児休業制度を利用すること」）には積極的であるが、だからといって、女性が育児から完全に自由になることを意図しているわけではない。自由記述のコメントにあるように、「子どもが小さいときには母親が面倒を見るべきである」といった観念が広く行き渡っていることもこういった結果に結びついていると思われる。

つまり、子を持つかどうかにたいしてのこだわりはあまりないが、子を持つならば規範をある程度保ちつつ行うことを良しとしている。また、男性の育児については積極的であるが、同時に「幼い頃の母親による保育」に対する規範は強く残っている。

また就業後の育児休業制度の利用希望についても男女ともに積極的である。しかしながら現実には男性が育児休業制度を利用することはまれである。実際に働く段階になると様々な理由で利用が困難なのが現状であろう。

特に男性においては、その後の就業経験や結婚生活の中で、育児参加への意欲が低下していく可能性が指摘された。つまり、20代から30代にかけて、男性の育児参加意欲を低下させる要因を突き止めることで、少子化対策へ男性側からの有効なアプローチ手段を発見できる可能性がある。インタビュー調査を行った30代の男性の回答によると、欲しい子どもの数や育児への参加意欲は、アンケート調査対象者男性よりも低下している。質的であり、サンプルも限られているインタビュー調査の結果と、量的で多くのサンプルの平均的回答であるアンケート調査の結果を単純に比較することはできないが、10年の世代差や就業経験などの様々な要因によって、男性の育児への意欲が低下していく可能性があることが指摘される。

しかしながら、20代から30代にかけての変化は、本研究においては、世代効果として現れたものであるのか、あるいは時代効果であるのか、確定はできない。今回大量観察調査の対象となった20歳前後の人々（1980～1984年生まれが中心）の日常生活へのコミットメント具合は、その上の世代の人々の同じ年頃の頃と比べると異なっている点がある。例えば、男子学生であっても自炊、昼の弁当作りといった事柄を行うことは特別でなくなりつつあるようである（インタビュー調査から）。こうした「日常生活」に対する積極的な関与が強いのは、今回大量観察の対象者達が、男子も家庭科を受けるようなカリキュラムになっていることも関係しているのかもしれない。いずれにせよ、今の20歳前後の若者の子育て・暮らし方に関するより深い分析が重要となろう。

このため、次年度以降の調査では、30歳前後の就労経験のある男性に加えて、20歳前後の学生

も対象にインタビュー調査を行い、生活意識等、育児参加意欲に関連すると思われる世代の特徴についても、検討する必要があると思われる。

今回確認された若者の「子どもが欲しい」「子どもがかわいい」「子どもを主体的に育てたい」「子育てのために諸制度を利用したい」という希望を尊重し、かなえられるようにする方策を考えることは極めて重要であろう。

また、かれらの子育てに対する高い意欲は、「子持ち・子育てに関する新しい行動を行う世代」の誕生の表れなのかどうか、長期的に観察していく必要がある。

子どもの価値観と出産・育児に関する調査

調査の目的

本調査は、人々が子どものことをどのように感じているかを知るためのものです。この度、早稲田大学学生のみなさんを対象に調査を行うことにいたしました。これから「あなたが子供たちのことをどのように感じているか」「あなたの人生において子供たちが果たす役割はどのようなものであると考えているか」を中心として質問をさせていただきます。任意の調査です。是非ともご協力ください。

いただきましたご回答は、統計的に処理し、個人のお名前が出るようなことは絶対にありません。本調査が成功するよう、それぞれの質問に可能な限り正直にオープンにご回答いただけますようお願いいたします。

なおこの調査は、厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「男性の子どもの価値観と出産・育児に関する研究」の一環として、厚生労働省の研究助成を受けて実施するものです。ご不明の点は、回収場所にいる調査員もしくは下記の問い合わせ先までご連絡ください。

ご記入にあたって

1. 黒または青のペンをご利用の上、必ずご本人がお答えください。
2. 回答は、特にことわりのないかぎり、もっともよくあてはまるものを1つ選び、その番号の右側の口をチェックしてください。なお「その他」を選択した場合は、その内容を具体的に書いてください。
3. 質問番号順にお答えください。矢印（→）では指示に従って進んでください。

調査票の回収について(9:00-16:30, 1階学部学科掲示板の前(119号室の前))

調査票は、1階学部学科掲示板の前(119号室の前)にて回収を行っておりますので、そちらにお持ちください。

回収は、9:00から16:30まで行います。回答して下さった方ご本人に提出をお願いいたします。

その際、学生証の提示をお願いいたしますが、これは本調査が「早稲田大学の学生」を対象としているためです。なにとぞご協力ください。

なお、調査票ご提出の際には、正しくご記入いただいているか調査員が確認いたします。記入漏れ等があった際にはその場で書き加えていただくことがあります。

回収時間内(9:00~16:30)に調査票をご提出下さった方には、薄謝(スターバックスのプリペイドカード:コアカード 500円分)を進呈させていただきます。なお、回答者ご本人にご提出いただけますようお願いいたします。また複数の調査票を一人の方からご提出いただいた場合も、プリペイドカードは1枚しかお渡しいたしませんのでご了承ください。プリペイドカードは調査票と引き換えにお渡しする予定ですが、万一足りなくなった場合は、郵送でお送りいたします。

是非とも本調査にご協力ください。

調査実施主体：

早稲田大学助手 辻明子
清泉女学院大学助手 高崎文字

お問い合わせ先：

早稲田大学人間科学部 辻明子
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
TEL 042(947)6813

調査員記入欄

回収者

回収番号			

入力者

入力確認者

性別 1□女性 47.7 2□男性 52.3

数字は%、特に断り書きのない場合 n=782

N.A.(無回答)の記入のないものは「0」

年齢 (20.70 歳)

学年 (学部 97.2/大学院修士 1.7/大学院博士 0.5 /N.A.0.6 2.20 年)

婚姻状態 1□未婚 100.0 2□既婚 - 3□離別 - 4□死別 -

子どもの有無 1□あり - (-) 人 2□なし 100.0

就職活動経験の有無 1□あり 22.1 2□なし 77.6 N.A.0.3

現在の居住地 1□大都市(東京都区部と政令指定都市) 30.3 2□中都市(人口 10 万人以上の市) 57.3
3□小都市(人口 10 万人未満の市) 10.0 4□町村 2.3 N.A.0.1

出身地 1□大都市(東京都区部と政令指定都市) 34.9 2□中都市(人口 10 万人以上の市) 39.0
3□小都市(人口 10 万人未満の市) 12.0 4□町村 13.8 N.A.0.3

両親との同居 1□父のみ同居 0.9 2□母のみ同居 3.8 3□両親とも同居 37.2
4□同居していない 57.4 N.A.0.6

兄弟姉妹の数 (いらっしゃらない場合は、それぞれ0を記入してください)

姉 (0.29) 人, 兄 (0.30) 人, 妹 (0.32) 人, 弟 (0.36) 人

通常、次のメディアからどのくらいの頻度で情報を得ていますか。

	毎日	週に数回	ごくまれに	見ない	
テレビ	1□ 77.2	2□ 16.5	3□ 3.7	4□ 2.4	N.A.0.1
新聞	1□ 30.6	2□ 27.6	3□ 26.7	4□ 14.8	N.A.0.3
インターネット	1□ 38.9	2□ 39.9	3□ 18.2	4□ 2.7	N.A.0.4

他の家庭と比べて時、あなたのご家庭の経済状態は以下のどれに相当すると思いますか。

1□普通よりはよい 31.5 2□普通だと思う 58.7 3□普通より悪い 9.7 N.A.0.1

あなたのお母さまの就業経歴について、教えてください。

1□結婚前からずっと勤めを続けてきた 22.9 2□子どもが大きくなってから再就職した 26.6
3□ずっと自営の仕事(農業を含む)や内職を続けてきた 8.4 4□ずっと家事・育児をしてきた 28.8
5□その他 13.2 N.A.0.1

あなたは、中学校を卒業してから今までに、未就学児(0~6歳)と、話したり、遊んだり、面倒をみたりといった経験がありますか。

1□頻繁にある(あった) 11.9 2□たまにある(あった) 42.5 3□ほとんどない 35.8
4□まったくない 9.8

あなたは将来結婚をしたいと考えていますか。

1□はい 82.9 2□いいえ 4.6 3□わからない 12.4 N.A.0.1

あなたは現在交際している異性がありますか。あてはまる番号を一つお答えください。(複数の交際相手がいる場合は、最も親しい異性についてお答えください)

1□配偶者がいる - 2□婚約者がいる 1.0 3□恋人として交際している異性がいる 41.7
4□友人として交際している異性がいる 30.9 5□交際している異性はいない 26.2 N.A.0.1

1. 次に子どもを持つことに関する様々な問題についてのご意見を伺いたと思います。

6	非常にそう思う
5	いくらかそう思う
4	ややそう思う
3	ややそう思わない
2	あまりそう思わない
1	全くそう思わない

このうちのどれがあなたの印象に近いかを教えて下さい。

	非常に そう 思う	まあ そう 思う	やや そう 思う	やや そう 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く そう 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(1)子育ては退屈なうんざりする仕事だ。	1.3	4.9	13.6	14.6	39.0	26.7	
(2)年を取って働けなくなったときに援助してもら えることは子どもを持つ十分な理由といえる。	3.7	13.6	26.7	18.8	26.9	10.4	
(3)子どもを育てることはいいことである。	45.5	34.4	14.3	2.2	1.8	1.3	NA.0.5
(4)愛情を何の遠慮もなく表現できるのは子どもに 対してだけだ。	4.0	13.9	18.9	24.3	25.2	13.7	
(5)子どもがいなかったとすれば多くの夫婦はいま よりもっと幸せだろう。	0.8	1.9	4.5	15.1	41.0	36.6	NA.0.1
(6)子どもを持つことは成功を目指してがんばる上 での大きな励みになる。	22.8	35.3	25.8	9.0	5.8	1.4	
(7)一族の伝統を絶やさないために子どもを持つこ とは重要だ。	6.8	16.4	28.1	16.9	19.6	12.1	NA.0.1
(8)子どもを欲しいと思うことは自然なことだ。	37.3	35.9	17.5	5.0	2.7	1.5	
(9)子どもを持つ前に子どもによってもたらされる 不便さについて考えるべきだ。	6.3	17.3	28.4	20.5	20.3	7.3	
(10)身の回りに常に子どもがいる生活は精神的なス トレスになる。	1.9	6.3	27.6	25.4	27.2	11.4	NA.0.1
(11)家族や友人からのプレッシャーがあるため、子 どもを持つべきかどうかに関する選択の自由は あまりない。	1.3	2.8	12.0	21.2	33.0	29.5	NA.0.1
(12)子どもを持つことは人間の果たすべき社会的責 任である。	3.5	9.5	22.6	26.0	21.6	16.6	NA.0.3
(13)親が子どものために行う努力はすべて、長期的 にみれば価値がある。	23.4	38.1	27.0	6.6	3.8	0.9	NA.0.1
(14)子どもを持つことにより夫婦の結びつきは強ま る。	26.2	41.4	21.6	6.5	2.8	1.2	NA.0.3
(15)人生の最も大きな目的のひとつは子どもを持つ ことである。	7.3	21.2	25.6	22.1	14.3	9.2	NA.0.3
(16)女性が本当の意味で大人になるためには子ども を持つことが必要だ。	6.8	12.7	22.5	21.9	20.8	15.3	
(17)子どもが人生で失敗したとすればそれは両親の 責任だ。	3.6	11.4	29.8	24.8	20.2	10.2	

	非常 にそ う思 う	まあ そう 思う	やや そう 思う	やや そう 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く そう 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(18)子どもを作ることは結婚の果たすべき最も重要な役割だ。	2.8	10.7	24.2	23.5	26.0	12.8	
(19)子どもがいると行動の自由がなくなる。	6.1	25.3	49.5	10.4	6.1	2.6	
(20)多くの場合、子どものいない人生は味気のないものだ。	6.0	14.7	29.8	24.8	17.6	7.0	
(21)若い夫婦は子どもを作らない限り社会に受け入れられない。	—	2.0	6.0	20.3	34.1	37.3	N.A.0.1
(22)人間は子どもができると不道德なことはしなくなる。	1.7	9.5	28.9	20.5	24.3	15.2	
(23)子どもを作るかどうかを決める際には、子どもを養う経済力があるかどうかを最初に考えなければならない。	22.0	32.4	35.8	6.5	2.6	0.8	
(24)多くの人にとっては、子どもを持つのは避けられないことである。	1.7	6.9	17.8	32.4	28.8	12.5	
(25)子どもは親にとっても忠実であり、それこそ、親となる最大の喜びのひとつである。	1.8	11.1	18.9	25.6	26.5	16.1	
(26)子どもの存在は夫婦間に多くのいさかや問題をもたらす。	1.8	9.6	36.7	26.2	21.0	4.7	
(27)子どものいる者のほうがそうでない者よりも社会の中で尊敬される。	0.6	5.0	19.4	23.4	28.9	22.6	
(28)女性が子どもを欲しがるのは当然のことだ。	13.6	27.0	28.3	15.6	10.7	4.7	N.A.0.1
(29)必要とされている気持ちを味わえるだけでも子どもを作る価値がある。	8.1	20.1	36.1	17.4	13.4	4.7	N.A.0.3
(30)良い親になった者は自分の人生に満足できる。	12.9	34.4	29.0	11.5	9.0	2.9	N.A.0.3
(31)子どものいる家庭が社会にとって望ましいものすべての基礎である。	3.1	8.8	23.3	30.3	22.1	12.4	
(32)子どもを作る前に、自分たちは子どもよりも別のことにお金を使いたいか考えるべきである。	4.2	10.5	29.2	29.7	19.3	7.2	
(33)親となることのいちばんの喜びは、子どもに善悪を教えることができることである。	3.5	9.2	22.6	30.7	21.7	12.3	
(34)人間には一族の名を途絶えさせないために子どもを作る義務がある。	1.8	6.0	19.3	24.4	23.5	24.9	
(35)子どもがいれば、自分が死んだ後も自分の一部が生き残り続けると思うことができる。	7.8	18.2	28.4	15.6	16.6	13.3	N.A.0.1
(36)子どもを持つ最大の喜びは二度と孤独にはならないことだ。	1.0	8.8	18.5	25.3	26.7	19.3	N.A.0.3
(37)子育ては多くの人にとって大きな経済的負担になる。	16.5	32.2	35.7	9.2	4.9	1.3	N.A.0.3
(38)出産制限をすることは自然への干渉であり正しくないことである。	7.5	13.9	24.9	23.8	19.2	10.2	N.A.0.4
(39)子どもができたなら自分の楽しみの多くをあきらめなければならない。	3.5	13.8	39.4	22.8	15.5	5.1	

	非常に 思う	まあ 思う	やや 思う	やや 思わ ない	あま りそ う思 わな い	全く 思わ ない	
	6	5	4	3	2	1	
(40)人生にとって本当に重要なことは子育ての経験からしか学べない。	1.2	5.1	18.5	27.7	29.2	18.3	
(41)子どもを持つ前に、それにより妻の仕事が妨げられるかどうかを考えるべきだ。	5.8	15.7	39.8	22.5	13.0	3.2	
(42)子どもを授かるのは結婚に対する神の祝福の証である。	2.9	10.4	24.3	19.8	21.0	21.5	NA.0.1
(43)子どものいる家庭は、現代社会の中で人々がくつろぎと幸福を感じられる唯一の場所である。	2.2	11.5	27.6	29.2	17.8	11.6	NA.0.1
(44)子どものいない者は真の意味で幸せにはなれない。	0.5	4.6	10.2	19.3	29.5	35.8	
(45)男は子どもを持ってはじめて大人になる。	3.7	10.1	19.2	21.9	23.0	22.1	

2. あなたは次のような考え方やことに対して賛成でしょうか反対でしょうか。

	まった く賛成	どちら かとい えば賛 成	どちら かとい えば反 対	まっ たく 反対	
	1	2	3	4	
(1)未婚のまま子どもを持つこと	9.7	28.0	52.3	9.8	NA.0.1
(2)結婚しても子どもを持たないこと	31.3	37.6	29.0	2.0	
(3)できちゃった結婚	15.2	37.1	39.3	8.4	
(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすること	12.7	28.1	48.6	10.5	NA.0.1
(5)子どもが小さいときに父親が育児休業制度を利用すること	48.5	42.2	7.7	1.7	

3. 以下は、子供が欲しい理由として一般的にあげられるもののリストです。以下のそれぞれの理由に関して、それはあなたにとって「子供が欲しい」と思う理由として「非常に重要」であるか、「やや重要」であるか、「まったく重要でない」かをお答え下さい。

	非常に重要	やや重要	重要でない	
	1	2	3	
(1)赤ん坊がいると楽しいから	46.7	43.7	9.6	
(2)一族の名前と伝統を守るため	7.9	32.6	59.5	
(3)男の子が欲しいから	21.0	42.2	36.8	
(4)女の子が欲しいから	21.0	43.6	35.3	N.A.0.1
(5)親戚（親も含む）に子供を作れという人がいるから	1.9	14.2	83.6	N.A.0.3
(6)年を取ったときに面倒を見てもらうため	6.0	47.6	46.4	
(7)たくさんの子供を持つことは宗教上の義務だから	1.3	5.1	93.6	
(8)家計を支えるために人手が必要だから	2.7	21.0	76.3	
(9)夫婦関係をより強固にするため	18.0	57.7	24.2	N.A.0.1
(10)今いる子供の遊び相手として	12.0	42.8	45.0	N.A.0.1
(11)子育てが好きだから	45.1	41.3	13.6	
(12)配偶者が子供を欲しいと考えるだろうから	37.1	52.7	10.2	
(13)家に子供がいるのは楽しいから	67.3	28.8	4.0	
(14)子育てをすることで人生や自分自身について学ぶことができるから	61.3	34.7	4.1	
(15)親子の間に育まれる愛情は特別なものであり、それは自分にとって重要なものだから	67.9	28.1	4.0	
(16)財産や知識を分け与える相手が欲しいから	9.7	39.9	50.3	N.A.0.1
(17)少なくともひとりは大人数になるまで生きていられるだろうと安心できるだけの数の子供が欲しいから	5.2	24.6	70.2	

4. 以下は、子どもは欲しくないと考え理由として一般的にあげられるもののリストです。以下のそれぞれに関して、それはあなたにとって「子どもは欲しくない」と考える理由として「非常に重要」であるか、「やや重要」であるか、「まったく重要でない」かをお答え下さい。

	非常に重要	やや重要	重要でない
	1	2	3
(1)子どもを持つと家計が圧迫されるから	28.8	57.9	13.3
(2)配偶者がもう子どもは欲しくないと考えているだろう	31.8	55.0	13.2
(3)子どもが出来ると自分の好きなことをする自由がなくなるから	24.2	55.9	19.9
(4)子どもができるとしなければならないことも増えるし面倒もかかるから	18.8	56.4	24.8
(5)子どもが出来ると配偶者と過ごす時間が減るから	15.0	52.9	32.1
(6)人口過剰問題が心配されるから	2.8	16.2	80.9
(7)子どもを育てることは感情的なストレスになるから	15.3	50.9	33.8
(8)子どもを十分に世話することができなくなる、あるいは子どもに十分な注意を向けることができなくなるから	34.1	49.2	16.6
(9)子どもができた場合には夫婦間に問題又はストレスが生じるだろうから	16.5	54.2	29.3

5. あなたの所属する社会においては、どれぐらいの数の子どものいる場合に「もう子どもは要らない」と考えるのが普通だと思われますか。

2574.55人

6. 身の回りに子どもはひとりも作らないと考えている夫婦、カップルはいますか。

1□はい 27.1 2□いいえ 72.5 N.A.0.4

7. あなたの身の回りの人々が子どもを欲しいと考える理由はどのようなものだと思いますか。

8. あなたは将来子どもが欲しいですか。

1□はい 83.4 2□いいえ(→15へ) 5.8 3□わからない(→15へ) 10.9

↓

9. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 n=652

1□1人 3.5 2□2人 64.4 3□3人 27.8 4□4人以上 2.1 5□わからない 2.0

N.A.0.2

10. あなたが子どもに期待する最終学歴を教えてください。 n=652

1□小学校 - 2□中学校 0.3 3□高校 3.2 4□大学 66.9 5□大学院 3.2

6□その他の学校(具体的に) : 1.1

7□状況による 21.8 8□わからない 2.6 N.A.0.9

11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます) n=652

1□はい(→14へ) 83.0 2□いいえ 6.6 3□わからない(→14へ) 10.4

↓

12. ではあなた以外のどなたが主体的に子育てを行うと思いますか最もあてはまるもの1つを選んでください。 n=43

1□配偶者 97.7 2□自分の親 2.3 3□配偶者の親 -

4□その他 -(具体的に:)

13. なぜあなたは主体的に子育てを行おうと思わないのでしょうか。最もあてはまるもの1つを選んでください。 n=43

1□子育てに興味が無いから 2.3

2□他のこと(仕事など)に専念したいから 44.2

3□仕事上の昇進や昇格に影響があると困るから 16.3

4□他の人(例えば配偶者)の仕事だと思うから 27.9

5□自分は向いていないから 2.3

6□子育てをする慣習がないから 7.0

14. 次にあなたが子どもを欲しい理由についてお聞かせください。 n=652

	そのとお りあては まる	ややあて はまる	ややあて はまらな い	まったく あてはま らない
	4	3	2	1
(1)年を取った時子どもがいなくて寂しい	25.8	52.9	15.3	6.0
(2)子どもがいると生活に変化が生まれる	53.2	42.3	3.5	0.9
(3)年を取った時子どもがいると安心	19.9	51.8	22.4	5.8
(4)血のつながった存在が欲しい	31.0	45.4	16.4	7.2
(5)家庭がにぎやかになる	70.9	26.5	1.8	0.8
(6)子どもを持つことで夫婦の絆が強まる	48.9	42.0	6.6	2.5
(7)配偶者が欲しいから	27.9	52.0	15.8	4.3

	そのとおりあてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	まったくあてはまらない	
	4	3	2	1	
(8)子孫を残したい	21.0	41.6	26.1	11.3	
(9)経済的ゆとりができるから	3.1	14.6	58.0	24.4	
(10)友達が子どもを産んだので	1.8	13.8	39.0	45.4	
(11)自分の生活に区切りがつく	7.8	45.6	34.7	12.0	
(12)夫婦関係が安定する	20.6	56.3	17.6	5.5	
(13)2人だけの生活は十分楽しんだ	6.6	33.9	40.5	19.0	
(14)自分の仕事が軌道にのった	15.3	43.9	27.8	13.0	
(15)周囲に勧められた	2.8	14.6	44.3	38.3	
(16)育児に自信が持てるようになった	15.8	45.1	27.3	11.7	NA.0.2
(17)子どもを育ててみたい	59.4	35.7	4.0	0.9	
(18)子どもが好きだから	62.3	28.8	8.0	0.9	
(19)子育ては生き甲斐になる	53.8	35.6	8.7	1.8	
(20)子育てで自分が成長する	61.7	33.6	4.3	0.5	
(21)配偶者の子どもが欲しい	55.7	33.6	8.6	2.1	
(22)女性として、妊娠・出産を経験したい／女性に、妊娠・出産を経験してほしい	34.7	34.0	22.2	8.4	NA.0.6
(23)子を産み育ててこそ一人前だから	11.3	31.0	41.6	15.5	NA.0.6
(24)結婚したら子どもを持つのが普通だから	8.3	28.7	39.0	23.9	NA.0.2
(25)次の世代を作るのは、人としてのつとめだから	7.8	26.2	41.4	24.4	NA.0.2
(26)姓やお墓を継ぐ者が必要だから	2.8	13.8	44.3	39.1	
(27)住宅事情が整っている	5.5	30.5	35.9	28.1	
(28)よい保育園があるので	3.1	11.3	43.3	42.3	
(29)親が楽しみにしているので	13.2	47.2	25.9	13.7	
(30)子育てを手伝ってくれる人がいる	7.7	34.8	36.2	21.3	

15. 経済的な心配がなければ、あなたが欲しいと考える子どもの数は変わりますか。

1□はい 29.3 2□いいえ(→17へ) 55.0 3□わからない(→17へ) 15.7

↓

16. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 3.30人 n=229

17. 次に大学を卒業させるまでに必要な教育費を政府が負担してくれることになったら、あなたが欲しいと考える子どもの数は変わりますか。

1□はい 24.8 2□いいえ(→19へ) 60.0 3□わからない(→19へ) 15.2

↓

18. その場合、あなたが欲しいと考える子どもの数は何人ですか。 3.79人 n=194

19. 何人までは大きな経済的担にならずに育てることができると思いますか。

_____ 2.04人

経済的観点

次に、子どもが大きくなるか成人した後に、どのような形の援助（経済的な援助、その他の現実的な援助）を子どもたちに期待しているかについてお聞かせください。

20. あなたは子どもに対し経済的な援助を期待していますか。

1□はい 11.5 2□いいえ 61.3 3□わからない 27.2

21. あなたは子どもに対し介護などの現実的な援助を期待していますか。

1□はい 23.3 2□いいえ 45.8 3□わからない 30.9

22. あなたが年を取ったとき、子どもからの経済的援助に頼る度合いは大きいと思いますか。そうでもないと思いますか。子どもからの経済的援助にはまったく頼らないと思いますか。

1□大きい 7.0

2□そうでもない 51.7

3□まったく頼らない 20.6

4□状況による 16.1→ どのような状況によってそれは変わりますか。 _____

5□わからない 4.3 N.A.0.3

23. 結婚後、親と同居することについて、あなたはどのように考えますか。

1□ 積極的 7.5 2□ 消極的 46.4 3□ 状況による 43.5 4□ わからない 2.6

24. 自分自身が働くようになった後に収入の一部を親に渡すことについて、あなたはどのように考えますか。

1□ 積極的 47.1 2□ 消極的 9.3 3□ 状況による 40.7 4□ わからない 2.9

25. 両親が年を取ったときに両親を扶養することに関して、あなたはどのように考えますか。

1□ 積極的 47.7 2□ 消極的 8.3 3□ 状況による 42.2 4□ わからない 1.8

26. 家事や家業の手伝いをする事に関して、あなたはどのように考えますか。

1□ 積極的 51.9 2□ 消極的 9.7 3□ 状況による 35.9 4□ わからない 2.4

27. 大家族とか小家族という言葉がよく使われますが、何人の子どもがいる家族を大家族又は小家族と呼ぶかについては人それぞれに異なっています。

あなたは何人の子どもがいる家庭を小家族だと思えますか。

_____ 1.97人未満

28. あなたは何人の子どもがいる家庭を大家族だと思えますか。

4.56人以上

29. 小家族で育った子どもと大家族で育った子どもの間には一般にある種の違いが存在するという人もいます。

以下のそれぞれの項目に関して、それは大家族の中で育った子どもと小家族の中で育った子どものどちらにあてはまると思えますか。

	小家族 1	大家族 2	わからない 3	
(1)開放的かつ他人にやさしい子ども	4.5	74.4	21.1	
(2)とても頭のよい子ども	53.2	9.8	36.8	N.A.0.1
(3)他の子どもたちに人気のある子ども	4.0	66.2	29.8	
(4)両親と仲の良い子ども	38.9	25.7	35.3	N.A.0.1
(5)わがままな子ども	81.7	5.4	12.8	N.A.0.1
(6)自信のある子ども	37.5	22.9	39.6	
(7)いつも機嫌のよい子ども	12.4	39.3	48.3	

育児休業制度に関する質問

30. あなたは育児休業制度について聞いたことがありますか。

1 □聞いたことがある 92.8 2 □聞いたことはない 7.2

31. 仮に勤め先に規定がない場合でも、申し出をすれば育児休業ができることを知っていますか。

1 □知っている 25.7 2 □知らない 74.2 N.A.0.1

32. 妻が専業主婦である場合、また、産休中である場合も、少なくとも子どもが生まれてから8週間までは、男性も育児休業をすることができることを知っていますか。

1 □知っている 38.4 2 □知らない 61.5 N.A.0.1

33. 育児休業制度には、子どもが一歳になるまでの休業の他、時間外労働の制限、深夜業の制限、勤務時間の短縮等の措置などがあることを知っていますか。

1 □知っている 31.3 2 □知らない 68.7

34. あなたは将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思えますか。

1 □はい(→35へ) 83.2 2 □いいえ(→36へ) 16.8

35. 34で「はい」と答えた方にうかがいます。あなたは将来どの育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等)を利用したいですか。 n=651

(1) 育児休業 1 □利用したい 86.8 2 □利用したくない 12.9 N.A.0.3
 (2) 時間外労働の制限 1 □利用したい 92.5 2 □利用したくない 7.2 N.A.0.3
 (3) 深夜業の制限 1 □利用したい 93.9 2 □利用したくない 5.7 N.A.0.5
 (4) 勤務時間の短縮 1 □利用したい 82.8 2 □利用したくない 16.7 N.A.0.5

→37へお進みください